

世界が認めた水墨画家



杉本 鶴翠さん かくすい

Focus Vol.33

長洲町でキラリ輝く人たち



◀「月下の夢」

2008年、世界最古の伝統をもつ公募展ル・サロン フランス芸術協会展で2度目の入賞となった作品。

つるこ
杉本 鶴子さん (雅号：鶴翠)
水墨画家

ル・サロン フランス芸術協会展

2007、2008、2012年入選
日仏交流150周年記念 OASIS 2008

ヴァレヌヌ賞

北京国際芸術博覧会 「銅賞」

ミネルヴァ国際女性栄誉賞

雪舟国際美術協会 会員

フランス芸術協会 ル・サロン会員

「ただ絵を描くだけじゃつまらない。その時その時で自分の思うままに、描き続けてきました。自由こそ芸術の原動力なんですよね」
自宅の2階にアトリエを構え、作品が所狭しと並んでいる。

杉本鶴翠さん(雅号)は、20年ほど前から水墨画を描き始め、ル・サロン フランス芸術協会展で3度の入賞のほか、数々の賞を受賞。加えてことしの春には、フランス芸術家協会のル・サロン会員として認められ、世界的アーティストの仲間入りを果たした。

ル・サロンとは、1667年にルイ14世の提言により創設された世界最古の伝統を持つ公募展で、マネやルノアール、ミレーなどの世界的アーティストもこの公募展で名声を勝ち得てきた。

「従来の水墨画は『静』を表現するのがほとんどですが、私の描く水墨画は、風などを入れるなど、『動』を表現しています」

フランス芸術家協会元会長の故クリスチャン・ビエ氏は作品の批評の中で、『杉本は作品に新鮮な風、いたずらな風、魅惑の風を吹き込む』と高く評価した。

水墨画との出会いは20年ほど

前。何か趣味を持つとうとしていた時に、多趣味な友人から誘われたのがきっかけだった。

「最初は仕事をしながら教室に通っていました。月に2回行けば良い方で、あまりまじめに通ってはいませんでしたね」と苦笑い。

程なくして先生が亡くなり教室は閉じてしまったが、『四君子』と呼ばれ、水墨画の基礎となる草花(蘭、竹、菊、梅の4種)の描き方はしっかりと教わっていた。

「最初は基礎とはわかりませんでした。一人で描くようになって、その基礎が活かされていることに気が付きました。しっかりと基礎を教えてもらっていたからこそ、描きたいものを、描きたいように描けるようになったんですね」

現在でも、先生の教えを忘れず、自分の好きな時に、自分が面白いと思うままに描いている。

「目標はいろいろとありますが、何よりも水墨画を楽しみながら、描き続けていきたいですね」とにっこり。

楽しいという思いと、自由に描くことが、原動力となり、作品を創り上げている。これまでも、そしてこれからも。